

高円寺地域小中一貫教育校基本設計説明会議事録

日時	会場	説明者	参加者
平成 28 年 1 月 29 日 (金) 午後 7 時～9 時 5 分	高円寺中学校 体育館	学校整備担当部長 学校整備課長 施設整備担当課長 学務課長	近隣住民等 43 名
平成 28 年 2 月 18 日 (木) 午後 2 時～4 時	座・高円寺 阿波おどりホール	特別支援教育課長 学校支援課長 済美教育センター所長 統括指導主事 高円寺中学校校長 (副校長) 株式会社教育施設研究所	近隣住民等 61 名

○議事

1. 区職員・校長（副校長）・設計者紹介、挨拶
2. 概要説明（別紙資料参照）
3. 質疑応答（要約）

【凡例】 Q…質問、要望など A…回答及び説明

Q：施設一体型の小中一貫教育校として、統合を進めた経緯を説明してください。

A：杉並第八小学校が平成 21 年に適正配置検討対象校となり、高円寺地域の学齢人口が少ないこと、統合対象校の小中一貫教育が活発に進められていること、そして高円寺中学校が築年数経過による建て替え時期を迎えていることや立地条件等を踏まえ、関係各位と意見交換を重ね、合意形成を図りながら本事業を進めてきました。

Q：施設分離型の小中一貫教育の取り組みで十分ではないですか。

A：施設一体型の小中一貫教育校になることで、小中学校の教員の日常的な連携による学びの連続性の確保や多様な人との交流を通じた豊かな人間性の育成など、より充実した取り組みが可能になると考えています。

Q：工事を急いでいるように思いますが、小中一貫教育校にする教育的効果、学校建て替えと既存校舎の改修のコスト比較検討を行い計画を進めてほしいです。

A：高円寺地域の子どもの数が減少しているため、適正規模の確保が必要です。これまでの準備会・懇談会での、学校・地域関係者との意見交換を踏まえ、計画の諸条件を整理しながら計画を行っています。

Q：学校希望制度を中止すると児童・生徒数は元に戻るのではないですか。

A：推計ではありますが、学校希望制度がない場合の児童・生徒数の試算を行っています。高円寺地域の学齢人口の推計を踏まえ、今回の新しい学校づくり計画を策定しています。

Q：新校は学区の中央部に配置することが望ましいのではないですか。

A：高円寺中学校校地を計画地とした場合、小学校の通学区域が概ね半径1kmの範囲内となりますので、通学距離としても適当と考えます。ただし、児童・生徒の安全性の確保は計画上で重要な項目として考えております。通学路の安全対策等に関しては引き続き検討していきます。

Q：子ども達や現場の職員の声は反映されているのでしょうか。

A：懇談会では計画3校の校長と副校長の2名ずつまた、各校の保護者の方にも参加していただき、意見を伺っています。さらに、各校教員からの意見についても別途伺う場を設けるなど、教育現場の声を交えながら丁寧に進めています。

Q：環状7号線からの大気汚染の影響への配慮を行っていますか。

A：高円寺中学校では、自動車排出ガス濃度について定期的に測定を実施していますが、学校環境衛生基準を満たしており、外部で活動しても問題ないレベルであると認識しています。

Q：音の問題等が出てくる環状7号線沿いに建設する理由を教えてください。

A：3校地を比較し、敷地面積が広いことから校庭が最も大きく確保出来る敷地であること、用途地域から規模の大きい校舎の計画が可能であることが挙げられます。環状7号線やJRからの影響を十分に配慮し、本敷地のメリットを活かした計画を進めています。

Q：中学校が1フロアに3学年まとまっており、高学年と低学年が一緒ではトイレが使いづらいのではないですか。

A：中学校は学年ごとにトイレを設けており、数も十分に足りていると認識しています。

Q：新校の想定人数と教室数を教えてください。校舎が窮屈になるという心配はないですか。

A：開校時（平成31年度）は、杉並第四小学校と杉並第八小学校を合わせて500名程度、高円寺中学校で100名程度と想定しており、普通教室は、小学校は20クラス、中学校は9クラスで計画しています。また、児童・生徒数の増加に対応できるよう普通教室への転用可能な予備教室も設けています。新校舎の延床面積は18,000㎡を超えており、十分なゆとりを持った計画になっています。

Q：普通教室は北側と東側の計画になっていると思いますが、問題はないですか。

A：南側教室にも日差しが強く黒板が見えづらい等の課題はあり、近年は教室内の照明や空調の対応により、南側以外に普通教室を配置する事例もあります。本計画は、光庭を設けることで、校舎内への採光・通風が可能な計画としています。

Q：普通教室や校庭に対して日が当たりにくい計画になると思いますが、医学的な専門家の意見は聞きましたか。

A：医学的視点からの意見は伺っていません。

Q：学年ごとの遊び場の割り当てについて教えてください。

A：小アリーナは小学生、大アリーナは中学生を主とした活用を考えています。その他、校庭以外では、中庭・屋上活動スペースを設けております。

Q：光庭には窓がありますか。また開けることは可能ですか。

A：光庭に面して窓を設けており、採光・通風が可能な空間になっています。

Q：校庭の面積や北側配置計画等を踏まえ、十分な運動スペースを確保できる計画になっていますか。

A：校庭以外にも体育等が十分できる面積を持った屋上活動スペース、大小2つのアリーナも設置し、小学部ゾーンには休み時間等に活用できる中庭も設置する等、十分な運動スペースを設けます。また、校庭の日陰となる部分は、舗装面の仕様を実施設計の中で詳細検討することで対応していきます。

Q：2階の特別支援ゾーンと普通教室ゾーンの間仕切り壁をやめてほしいです。

A：教育環境に配慮するとともに分け隔てない平面計画を行います。

Q：校庭の広さと部活動の成績は関係していると思います。今回の計画は校庭が狭いと思うので十分な活動ができるよう配慮してほしいです。

A：了解しました。

Q：学童クラブの位置と児童館の今後について教えてください。

A：学童クラブは1F西側に計画します。高円寺北児童館及び高円寺中央児童館の今後については、区全体を見通しての検討課題です。

Q：学童クラブや放課後居場所事業を利用する児童の活動スペースはどうなっていますか。

A：校庭やアリーナ、図書室、多目的室等十分な活動スペースを確保した計画としています。

Q：小中学校で授業時間が異なりますが、学校運営上の時間割の作成は難しくありませんか。

A：先行事例である杉並和泉学園の実績を踏まえ、チャイムを鳴らすタイミングを工夫することで、問題なく運営出来ると考えています。

Q：小中一貫教育校は、様々課題があると思いますが、今回の事業のメリットを教えてください。

A：メリットとして小学校6年間と中学校3年間の学びをつなげ、発展させていくことができると考えています。事例として小中一貫教育校の教職員の小学校から中学校へ学びをつないでいくという責任感や思いがより強くなったと聞いています。

Q：小学校のクラブ活動と中学校の部活動が重複するという問題はないですか。

A：小学校のクラブ活動は時間割の中で行い、中学校の部活動は放課後に行うため、活動時間が重複することはなく、運営上の問題はないと考えています。

Q：杉並和泉学園は平面的に小学部と中学部の校舎が分かれています。高円寺地域の計画は階で分かれています。共有教室の利用時の学校運営について問題はないですか。

A：杉並和泉学園と同様に、小学校と中学校の授業時間の差を工夫することで、問題なく運営できると考えています。

Q：建設期間中、高円寺中学校の生徒は、近隣校での校庭利用となるので十分に子ども達に配慮した計画としてほしいです。

A：これまでの懇談会の中でも代替運動施設利用時の課題について意見をいただいています。利用時の安全性等に十分配慮した計画を行っていきます。

Q：一部区域は、小学校と中学校の通学区域に差異がありますがどのような対応を取るのですか。

A：開校を見据えて、平成28年度から平成30年度までの期間は就学校を選択できる特例措置を設けます。その結果を踏まえて通学区域を決定する予定です。

Q：児童・生徒の通学時の安全面の配慮を行っていますか。

A：保護者、地域・学校関係者や警察を交えてこれから検討していきます。

Q：北側・東側の道路については道が狭く、通学者の安全に配慮した整備を行ってください。

A：道路の安全対策は、実施設計の中で検討していきます。

Q：統合後の既存校の活用方法を教えてください。

A：具体的な活用方法は検討中です。地域の安全安心なまちづくりに貢献できる計画を行っていきます。

Q：近隣校や就学前施設に説明会の周知が行われていない理由について教えてください。

A：今回は杉並区まちづくり条例に基づいた説明会であり、改めて近隣校や就学前施設に通うお子様を持つ保護者の方に向けた基本設計の説明の場を設ける予定です。

Q：東側の住宅地への日陰の影響をどのように考えていますか。

A：法規制に基づき、周辺への日影に配慮した計画としています。

Q：現在、校庭の砂や既存高木の葉が樋に溜まるため、配慮してほしいです。また、音と砂への配慮として、防音・砂防壁の設置についても検討してほしいです。

A：樹木配置や校庭舗装材の工夫など、実施設計の中で周辺住民に配慮し、検討を進めていきます。